

くにしせき むさしこくふあと こくしのたちちく 国史跡 武藏国府跡 国司館地区

ここは、今から1,300年ほど前に武藏国府の国司館があったところです。さらに、今から430年ほど前に、徳川家康の府中御殿も置かれた府中市の歴史を象徴する国の史跡です。

National Historic Sites, Musashi Kokufu Site ("Kokushinotachi"= Provincial Governors Offices area)

This is the former location of the Musashi Provincial Governor's Office, a facility that was constructed approximately 1,300 years ago.

During the Edo period, it served as the location of Tokugawa Ieyasu's Fuchu Palace, a structure erected approximately 430 years ago.

Accordingly, it is both a national historical site and one that symbolizes the history of the Fuchu region.

■古代武藏国と国司館

古代武藏国の首都的機能を持った国府

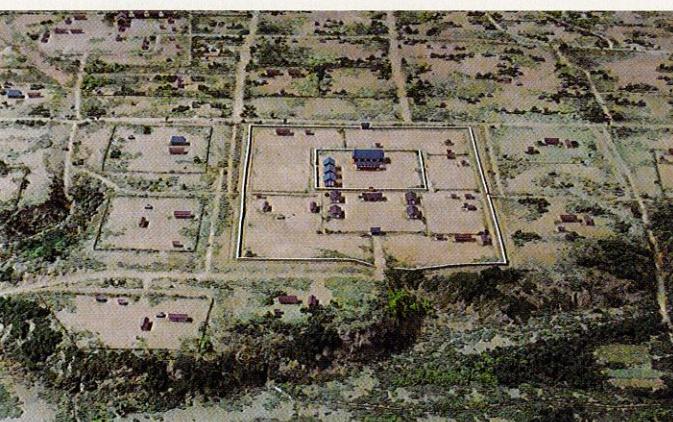
武藏国府は、飛鳥～奈良時代の初め頃(7世紀末～8世紀初頭)から平安時代の終わり頃(11世紀代)にかけて、武藏国^{ようしゃく}を治めた行政機関です。さらに、水陸交通の要衝でもあったことから、政治・経済・文化の中心として栄えていました。

※武藏国：律令制に基づき設置された地方行政単位。今でいう都道府県。現在の東京都と埼玉県のほぼ全域、神奈川県の横浜市と川崎市の一部を含む

古代の地域区分



むさしのくに 武藏国と21郡



武藏国府のジオラマ
(府中市郷土の森博物館写真提供)

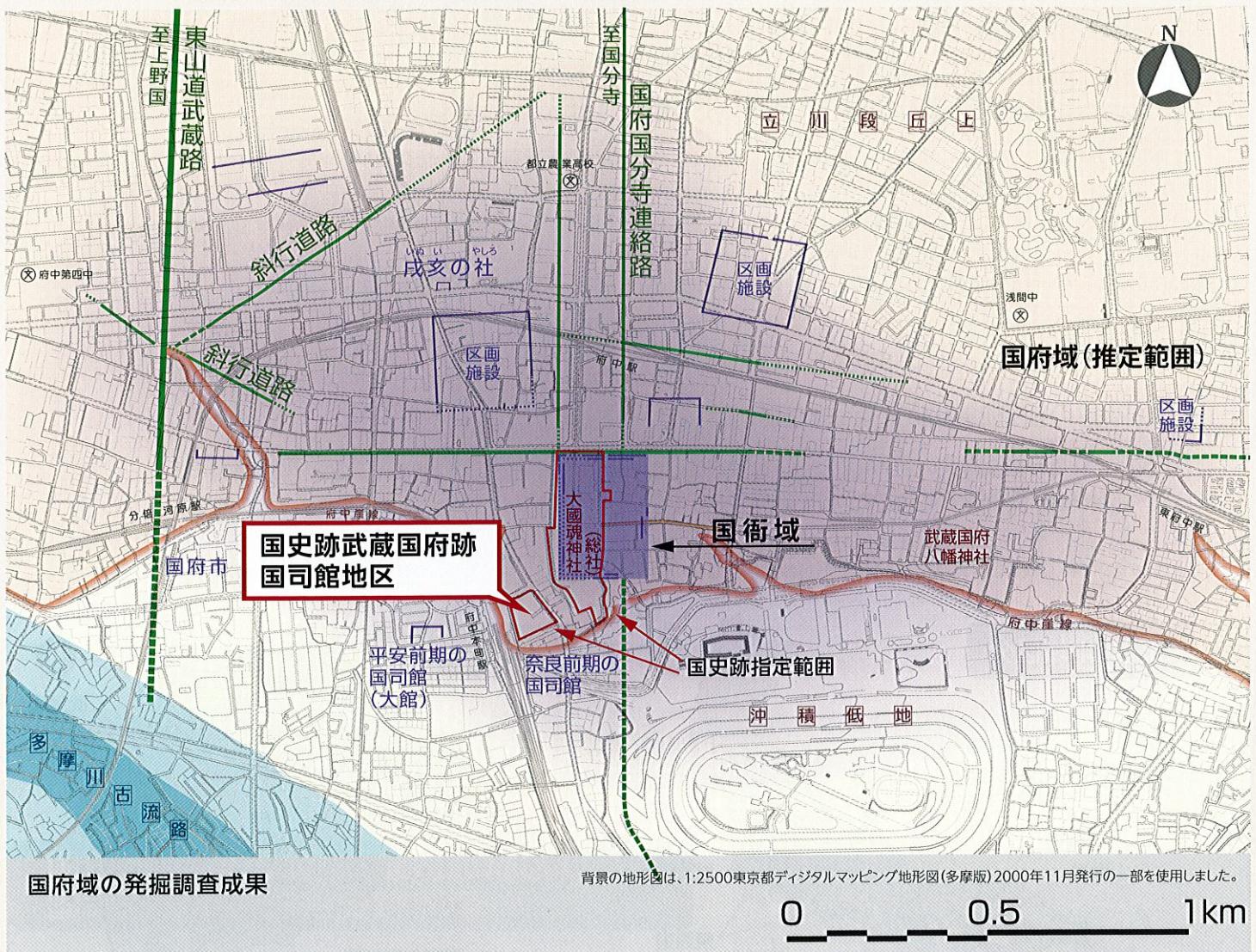


発掘調査時の状況
(南西から国衙跡・大國魂神社方面を望む)

武藏国府の範囲と国庁・国衙

武藏国府の役所中枢施設を「国庁」、国庁を中心とした官庁街を「国衙」、そのほかの諸施設を含む範囲を「国府」といいます。

方形に区画され、莊厳な建物が整然と並ぶ国衙域(現在の大國魂神社境内と東側)を中心に、東西約2.2Km、南北最大1.8kmの範囲で国府が広がっていました。



古代武藏国府の国司館

国司館とは、奈良の都から武藏国の国府に赴任してきた国司の居宅兼執務室です。現代でいえば、東京都知事の公館にあたります。発掘調査の成果により、武藏国の国司館は、7世紀後半～8世紀前半に造営されたと考えられています。

発掘された国司館

国司館地区には、当初、東西棟の建物が2棟建てられました。その後、8世紀前半に、東西棟の四面廂建物の主殿(桁行5間×梁行4間)と、南北棟の脇殿(桁行8間×梁行3間)が建てられたことがわかりました。これらの建物は真北を基準に建てられ、規則正しく並んでいました。

この場所は、国衙の南西側に接することから、国衙中枢地区との密接な関連がうかがえます。武藏国府の成立や、日本古代の地方行政組織の成り立ちを解明するうえで、貴重な調査成果となります。

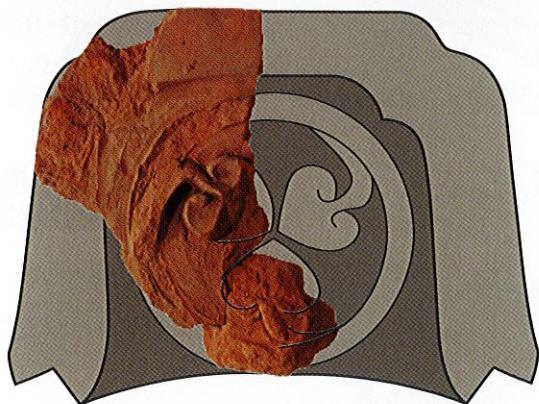
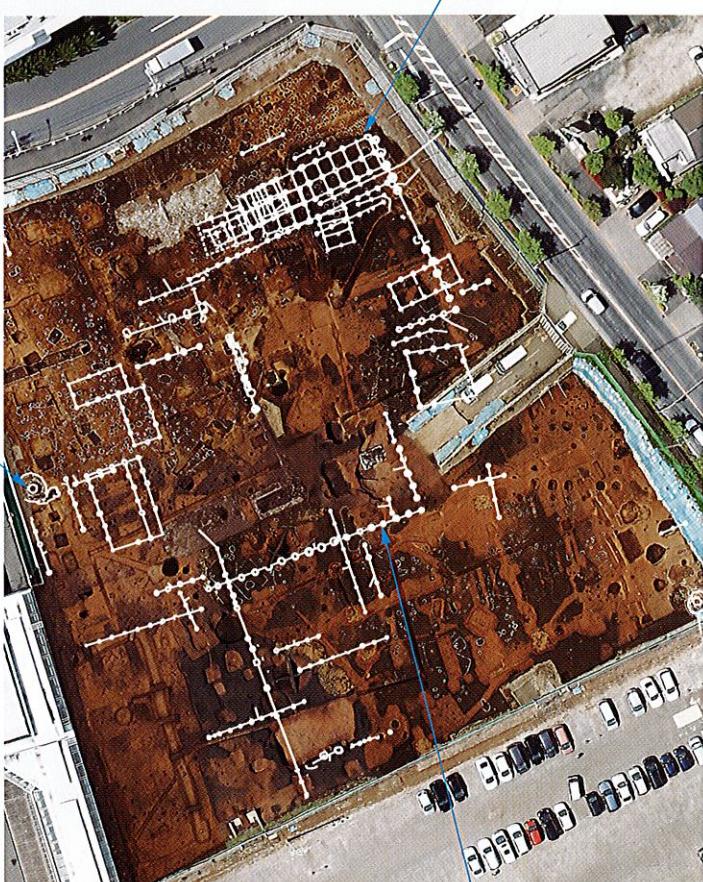
■徳川家康府中御殿跡

発掘された徳川家康府中御殿

発掘調査によって、ほったてばしら掘立柱建物跡、さきや柵跡、くらわ廐と推定される建物跡や、大型石組井戸跡などが発見されました。さらに、その井戸跡から、江戸時代前期(17世紀前半)のものと考えられる三葉葵紋鬼瓦が出土したことなどから、この場所に徳川家康が鷹狩の際に宿泊・休息した府中御殿があったことがわかりました。



大型石組井戸跡



三葉葵紋鬼瓦(復元図)

復元した大きさ:タテ約40cm、ヨコ約75cm、厚さ13cm

御殿跡関連遺構発掘調査状況

柵 跡

江戸初期の府中御殿

府中御殿は、1590(天正18)年に造営されたと考えられ、江戸を中心に設置された数ある御殿の中でも早い段階に建設されたものです。

徳川家康の棺が逗留

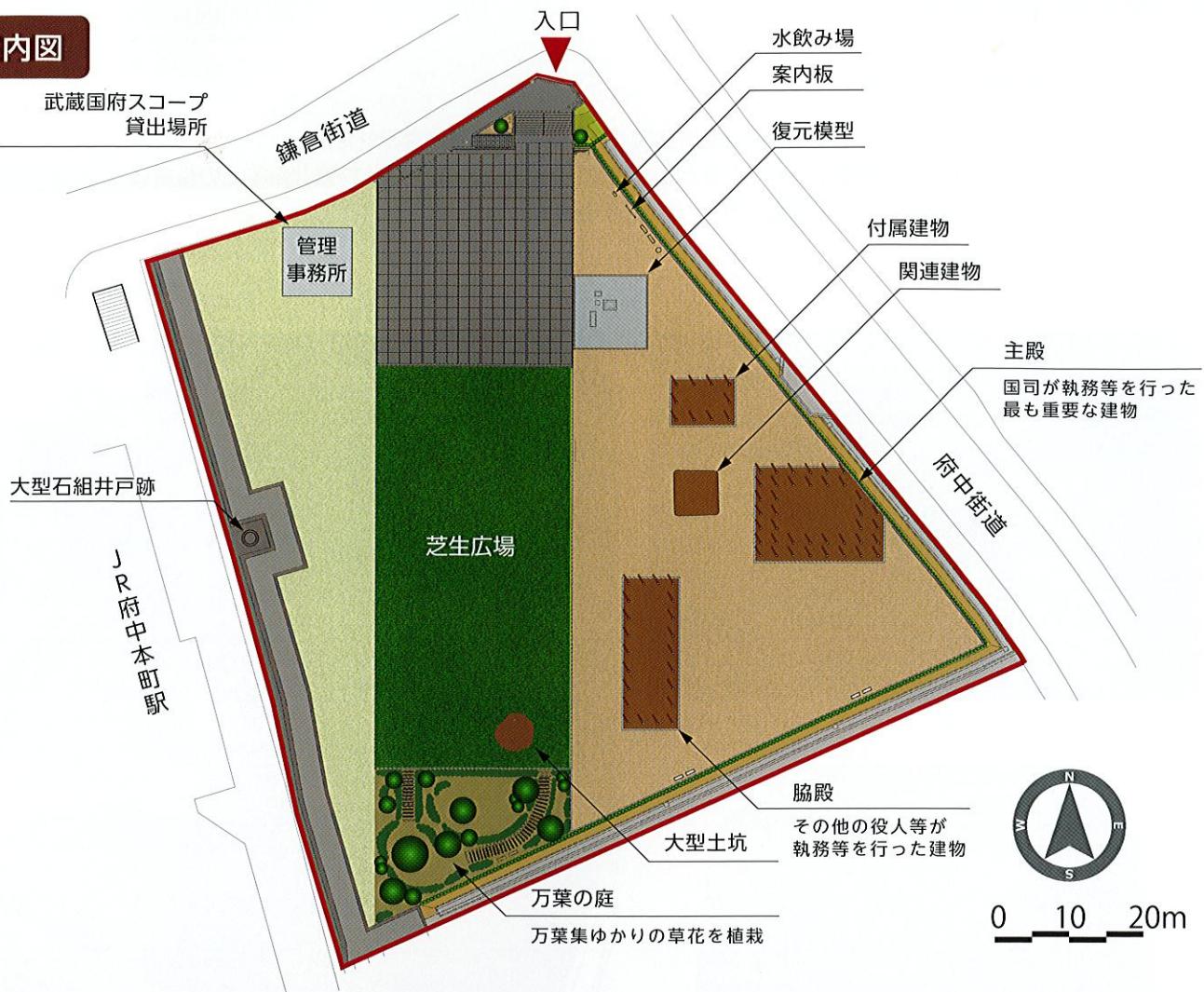
御殿は、家康、秀忠、家光の三代にわたって、鷹狩の宿舎等として使われました。また、1617(元和3)年、家康の靈柩を久能山(静岡市)から日光山(栃木県日光市)に移葬する際、一行がここに滞在し、法要を営んだようです。

古代の国司館と家康御殿

江戸時代後期の地誌『武藏名勝図会』に、家康が「府中は古えより府庁の地と兼ねて聞召されければ、その旧地へ営むべき旨…」と御殿造営を命じた経緯が記されています。家康は、新たな領主となった武蔵国において、領国支配の正当性を示すうえでも、古代武蔵国の国府(国司館)があったこの場所に御殿を築くよう命じたものと考えられます。最近では、豊臣秀吉が「御座所」として建造させた可能性も指摘されています。

いずれにしても、古代の国司館と府中御殿がともに同じ場所にあり、遺跡として現代まで保存してきたことは、とても重要なことです。

案内図



最も歴史的に重要な奈良時代前半の国司館を模型及び原寸大の柱で復元・整備しました。
武藏国府スコープをのぞいて、当時の様子を体感してみて下さい。

国史跡 武藏国府跡(国司館地区) 国司館と家康御殿史跡広場

- 所在地** 府中市本町1-14
- 開園時間** 冬期(11月~2月)は15:00まで
9:00~17:00(スコープの貸出しへは16:00まで)
- 休園日** 年末年始(イベント開催等による臨時休園あり)
- 入園料** 無 料
- 問い合わせ** 府中市文化スポーツ部ふるさと文化財課
〒183-0023 東京都府中市宮町3-1
府中市立ふるさと府中歴史館3階
- 電話** 042-335-4487(直通)
- E-mail** bunkazai01@city.fuchu.tokyo.jp



禁止事項 園内では、下記の事項はご遠慮ください。

-  自転車等放置・進入
-  ペットの入場
(盲導犬、聴導犬、介助犬を除く)
-  ゴルフ等の危険行為
-  火気の使用
-  ごみのポイ捨て
-  喫煙・飲酒・飲食



①ほっとするね 緑の府中
府中市

平成30年11月発行